

はたちのつどい

人生の節目とみんなの笑顔

1月11日、20歳の門出を祝う「はたちのつどい」が市文化センターでおこなわれました。輝くような笑顔と華やかさにあふれた「ハレの日」のようすや、人生の特別な一日を迎えた皆さんの思いをお伝えします。



1月11日の朝、文化センター前の広場に晴れ着姿の20歳の方が続々と集まり、友人と再会に歓声を上げたり、家族と記念写真を

撮ったりと晴れやかな雰囲気に包まれました。神栖市で今年、20歳の新たな門出を祝う「はたちのつどい」の対象となるのは978人（2005年4月2日～2006年4月1日生まれ、市外在住者含む）で、757人が出席しました。2022年に成年年齢が20歳から18歳に引き下がられ、成人式が「はたちのつどい」へと名称も変わっていますが、人生の節目を祝う大切な行事であることに変わりはありません。

ほぼ満席の大ホールで、厳かに式典がスタート。今年も企画から当日の進行まで務めたのは、20歳を迎えた実行委員の皆さんです。「誓いのことば」「抱負発表」「実行委員長あいさつ」など、率直で誠実な思いを、会場全体が静かに聞き入っていました。恩師からのビデオメッセージが流れると、歓声や拍手で大盛り上がり。「夢を持つて頑張れる人になつてください

い」「コロナ禍を乗り越えた経験は、これから的人生に大いに役立つでしょう」など熱いエールが送されました。

20歳の皆さんがどのような思いで今日の日を迎えたのか、聞いてみました。「今は千葉に住んでいるので、久しぶりに小中高の仲間に会えるのを楽しみにしていました」（乾隼輔さん）との声。大学や就職で地元を離れている人が多く、この日も東京、千葉、福島、京都、北海道など全国から集まりました。また、「片親で育ててくれた父に感謝しています。恩返しできるようになります」と（村田夢輝さん）など、親御さんへの感謝の気持ちを持つ人がたくさんいました。他にも、「神栖市に住み続けて、家庭を持つことが夢」（石神桃花さん）、「神栖市のため頑張ります！」（粟飯原晴翔さん）という地元愛あふれる声も聞くことができました。自分の考えをハキハキと答えてくれた20歳の皆さん。自分の道をしっかりと歩んでいこうとする姿勢に、希望と責任感を感じられました。



い」「コロナ禍を乗り越えた経験は、これから的人生に大いに役立つでしょう」など熱いエールが送されました。

20歳の皆さんがどのような思いで今日の日を迎えたのか、聞いてみました。「今は千葉に住んでいるので、久しぶりに小中高の仲間に会えるのを楽しみにしていました」（乾隼輔さん）との声。大学や就職で地元を離れている人が多く、この日も東京、千葉、福島、京都、北海道など全国から集まりました。また、「片親で育ててくれた父に感謝しています。恩返しでき